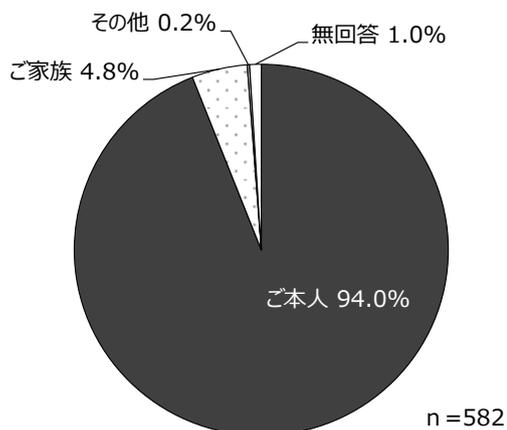


3 第2号被保険者調査

あなた自身のことについて

調査票を記入した人

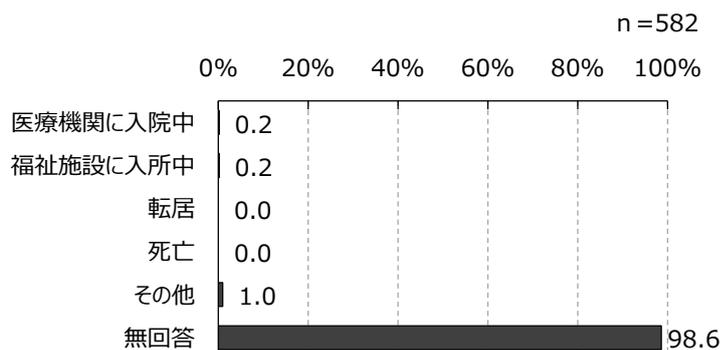
【図表 177】 調査票の記入者



記入者	人数
ご本人	547
ご家族	28
その他	1
無回答	6
合計	582

ご本人が何らかの事情によりご不在の場合

【図表 178】 不在の事情

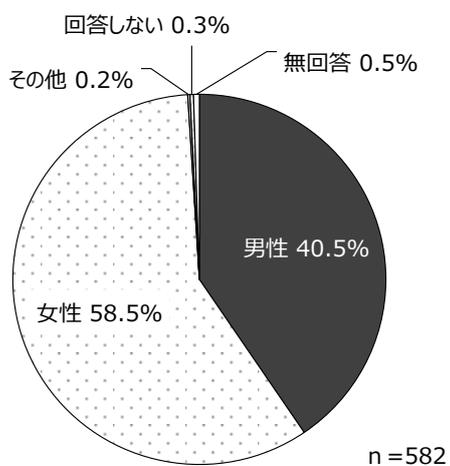


不在の事情	人数
医療機関に入院中	1
福祉施設に入所中	1
転居	0
死亡	0
その他	6
上記に該当しない	574
合計	582

3 第2号被保険者調査

問1 性別を教えてください。

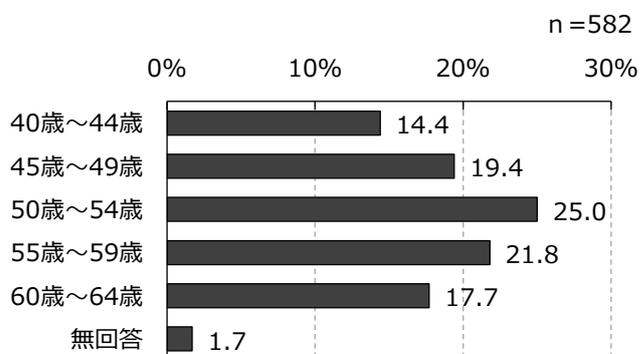
【図表 179】性別



性別	人数
男性	236
女性	340
その他	1
回答しない	2
無回答	3
合計	582

問2 年齢をご記入ください。

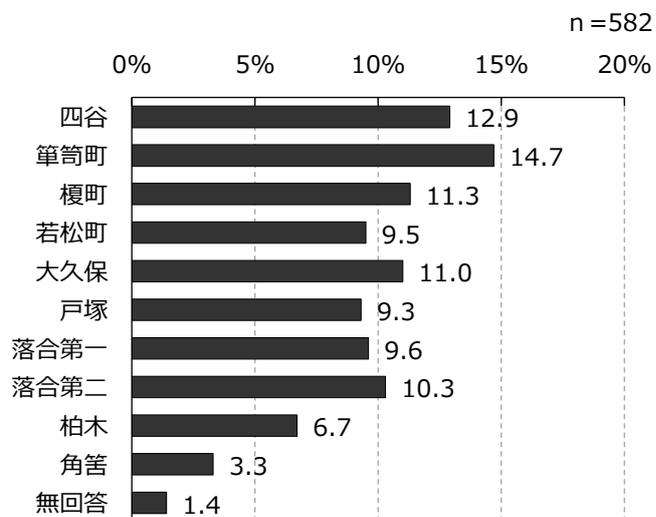
【図表 180】年齢



年齢	人数
40歳～44歳	84
45歳～49歳	113
50歳～54歳	145
55歳～59歳	127
60歳～64歳	103
無回答	10
合計	582

問3 あなたのお住まいは、どの特別出張所管内ですか。

【図表 181】 居住地域



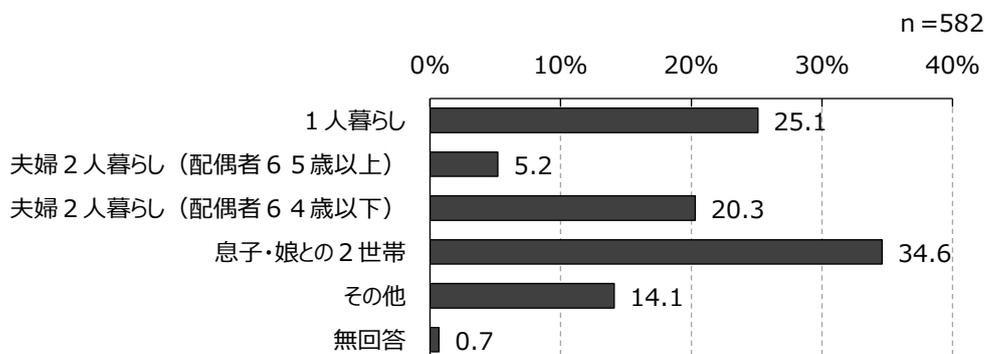
居住地域	人数
四谷	75
箆笥町	86
榎町	66
若松町	55
大久保	64
戸塚	54
落合第一	56
落合第二	60
柏木	39
角筈	19
無回答	8
合計	582

あなたのご家族や生活状況について

問4 家族構成を教えてください。

家族構成については、「息子・娘との2世帯」が34.6%と最も多く、次いで「1人暮らし」が25.1%、「夫婦2人暮らし（配偶者64歳以下）」が20.3%となっている。

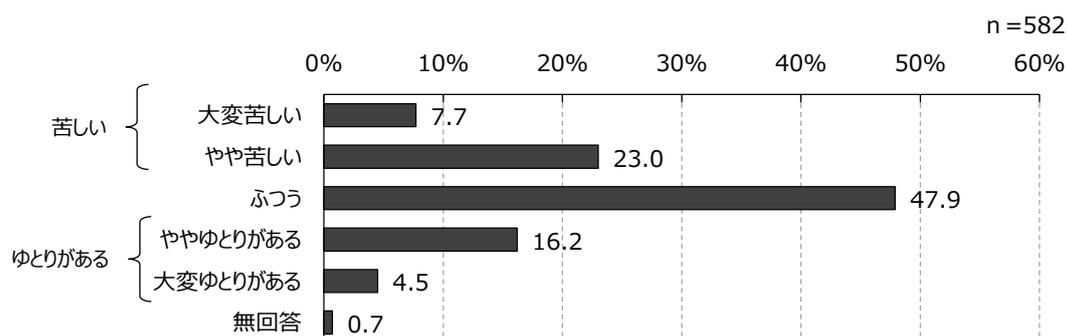
【図表 182】 家族構成



問5 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。

現在の暮らしの経済的な状況については、「ふつう」が47.9%と最も多く、「大変苦しい」（7.7%）と「やや苦しい」（23.0%）を合わせた“苦しい”は30.7%となっている。一方、「ややゆとりがある」（16.2%）と「大変ゆとりがある」（4.5%）を合わせた“ゆとりがある”は20.7%となっている。

【図表 183】 現在の暮らし向き



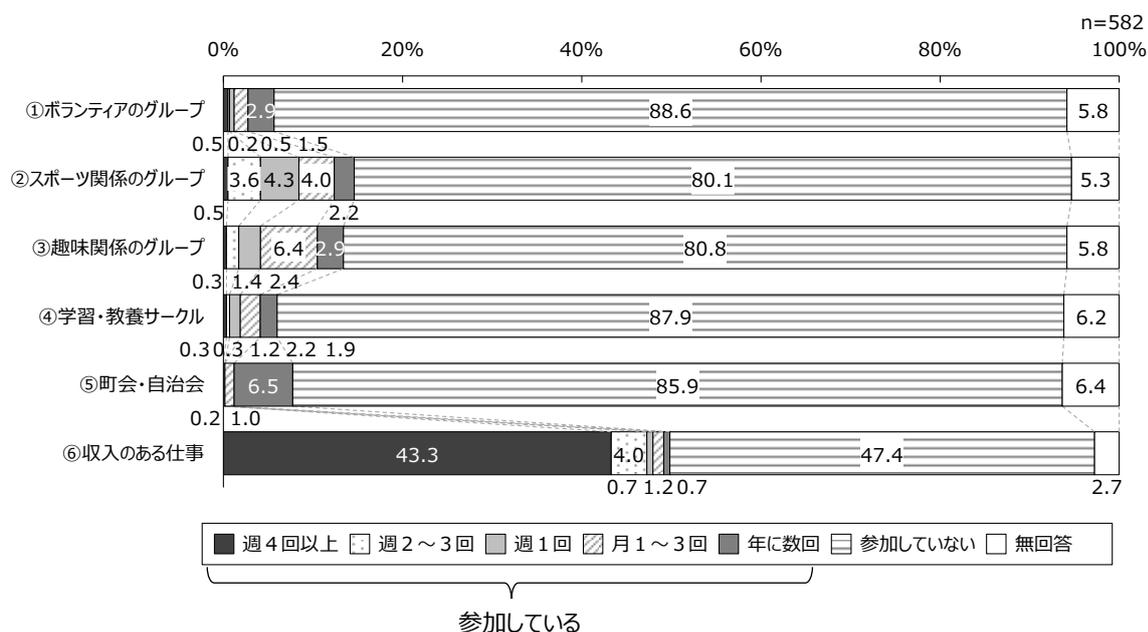
地域での活動について

問6 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか。

会・グループ等への参加頻度については、すべての会・グループ等で「参加していない」との回答が最も多くなっている。

「週4日以上」から「年に数回」までを合わせた“参加している”は①ボランティアのグループで5.6%、②スポーツ関係のグループで14.6%、③趣味関係のグループで13.4%、④学習・教養サークルで5.9%、⑤町会・自治会で7.7%、⑥収入のある仕事で49.9%となっている。

【図表 184】 会・グループ等への参加頻度



3 第2号被保険者調査

問7 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

地域住民の有志による地域づくりへの参加者としての参加意向については、「既に参加している」が1.0%、「是非参加したい」が7.4%、「参加してもよい」が54.0%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は62.4%となっている。

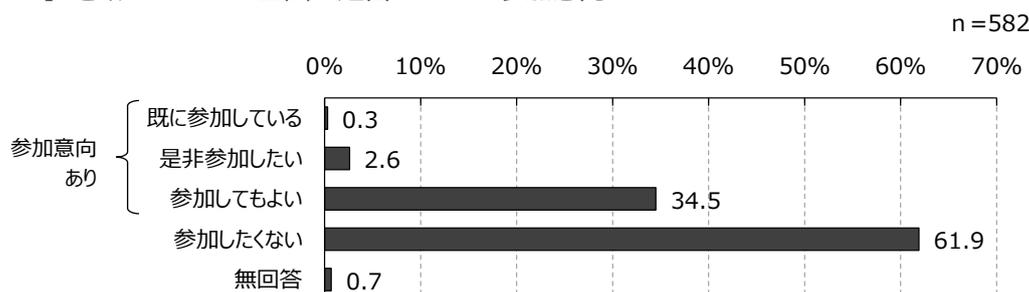
【図表 185】地域づくりへの参加者としての参加意向



問8 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営(お世話役)として参加してみたいと思いますか。

地域住民の有志による地域づくりへの企画・運営としての参加意向については、「既に参加している」が0.3%、「是非参加したい」が2.6%、「参加してもよい」が34.5%となっており、これらを合わせた“参加意向あり”は37.4%となっている。

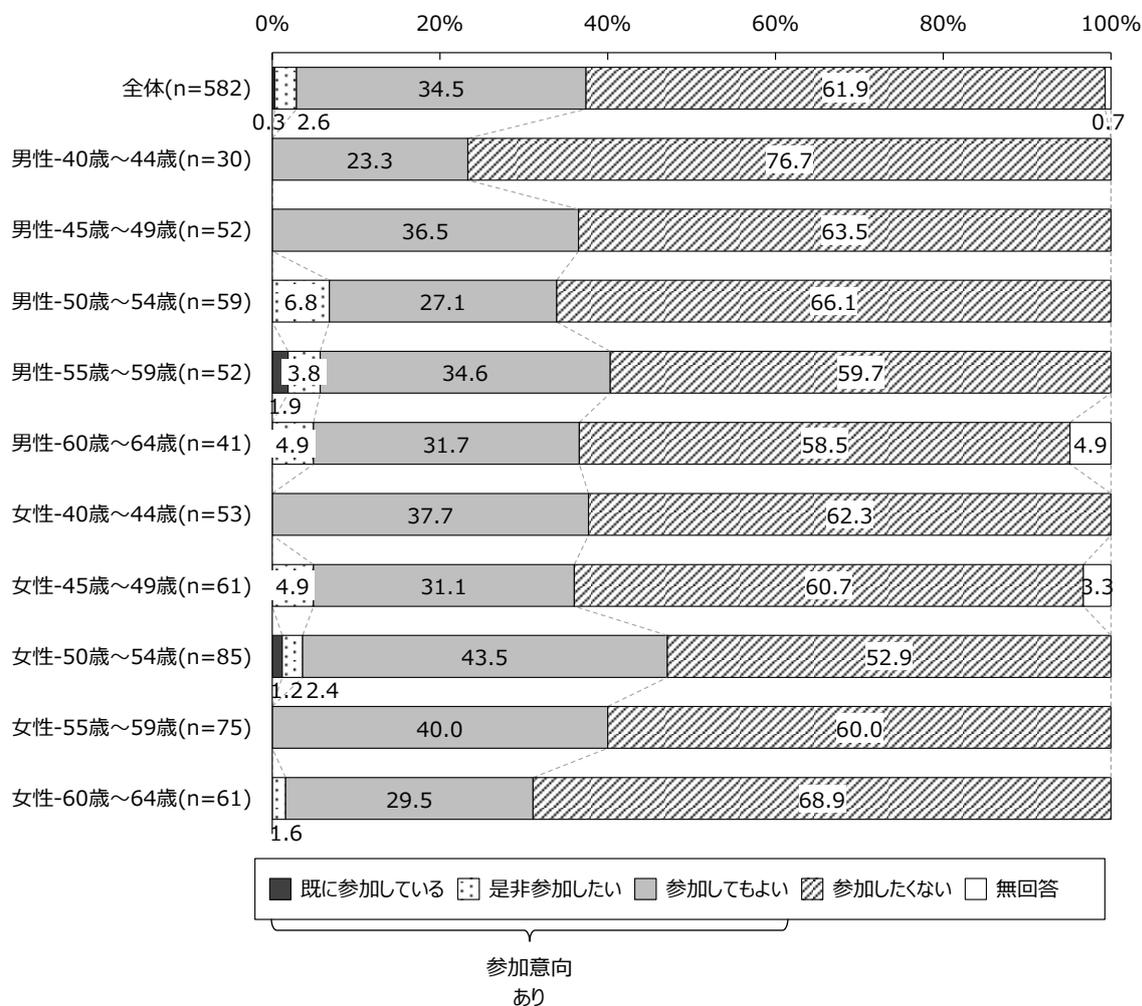
【図表 186】地域づくりへの企画・運営としての参加意向



■地域づくりへの参加者としての参加意向〈性・年齢別〉

地域づくりへの企画・運営としての参加意向を性・年齢別にみると、女性の方が男性より“参加意向あり”が高い傾向がみられる。

【図表 187】 地域づくりへの企画・運営としての参加意向 〈性・年齢別〉

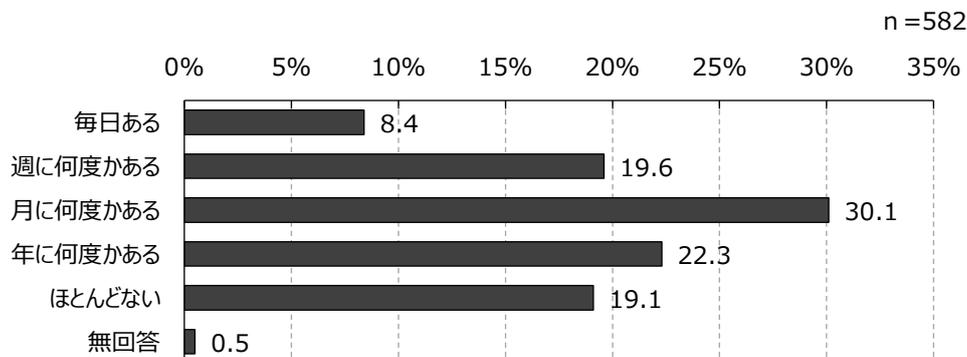


たすけあいについて

問9 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

友人・知人と会う頻度について、「月に何度かある」が30.1%と最も多く、次いで「年に何度かある」が22.3%、「週に何度かある」が19.6%となっている。

【図表 188】友人・知人と会う頻度

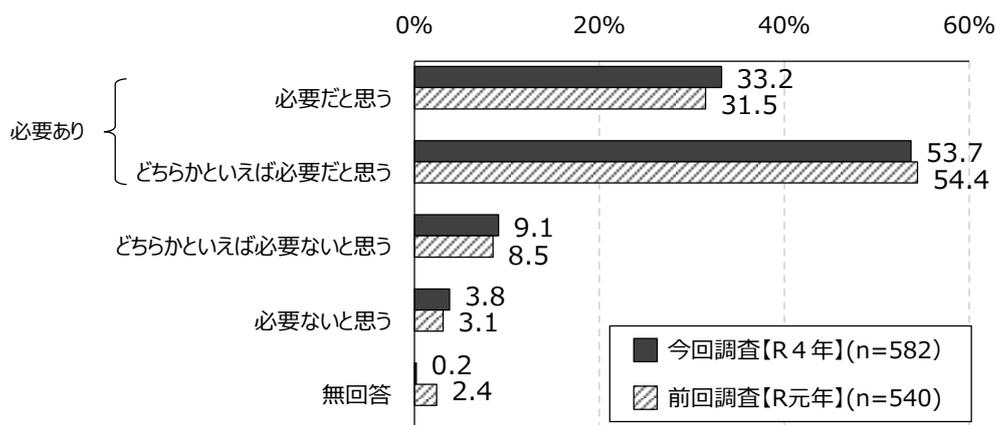


問10 あなたの日々の暮らしの中で、地域のつながり(住民同士の助け合い・支え合いなど)についておたずねします。

(1)地域のつながりの必要性

地域のつながりの必要性については、「どちらかといえば必要だと思う」が53.7%と最も多く、「必要だと思う」(33.2%)と合わせた“必要あり”は86.9%となっている。

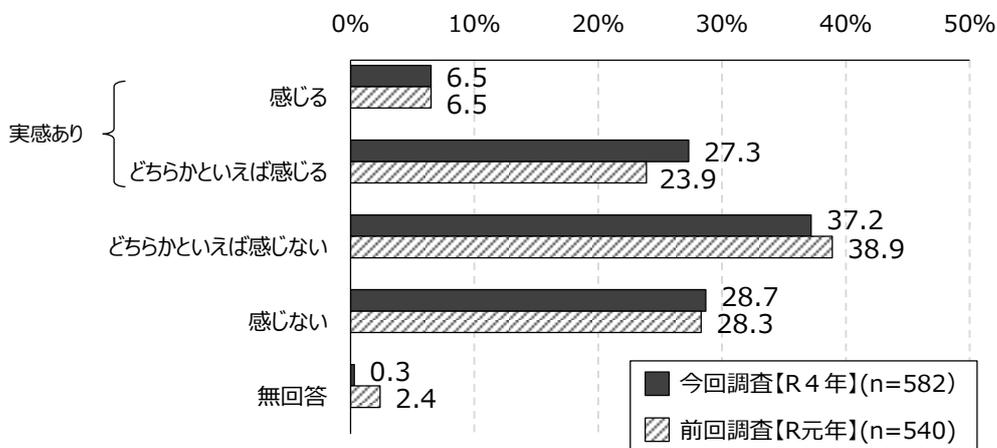
【図表 189】地域のつながりの必要性〈前回比較〉



(2)地域のつながりの実感

地域のつながりの実感については、「感じる」(6.5%)と「どちらかといえば感じる」(27.3%)を合わせた“実感あり”は33.8%となっている。

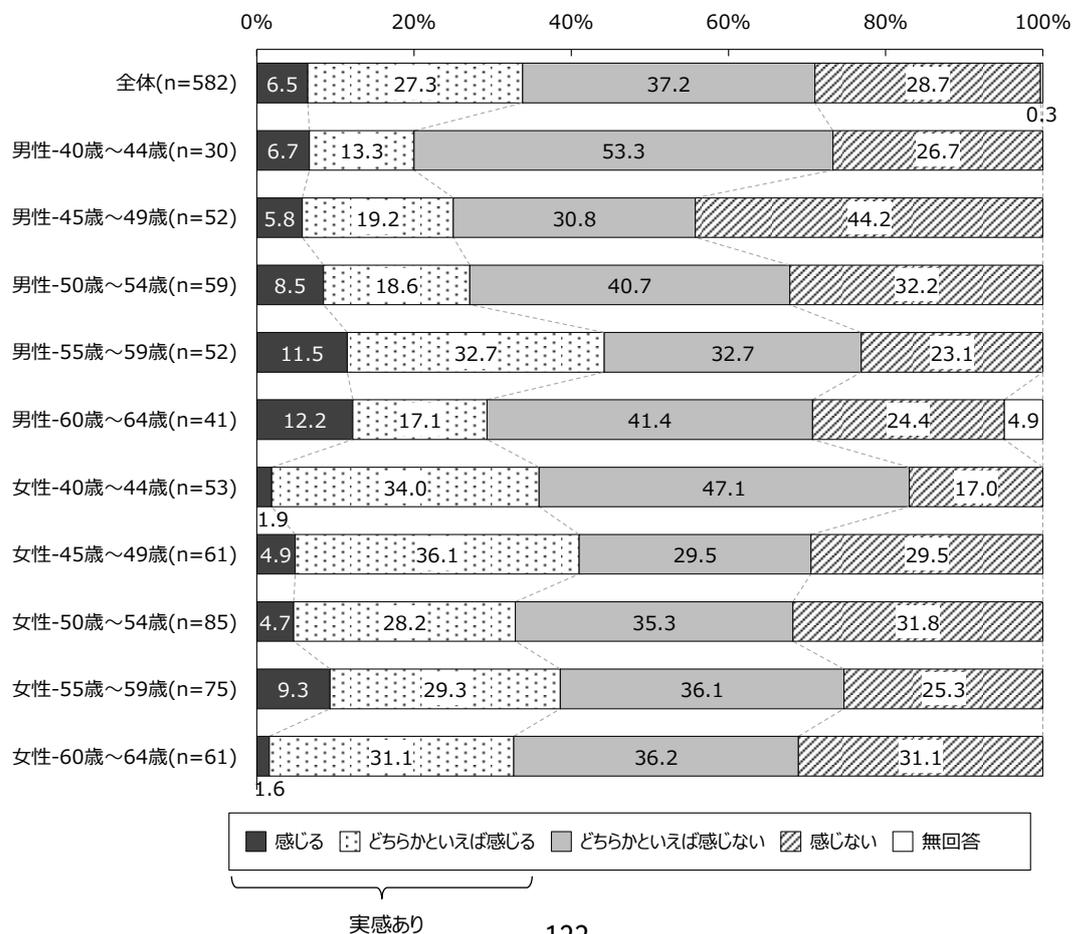
【図表 190】地域のつながりの実感〈前回比較〉



■地域のつながりの実感〈性・年齢別〉

地域のつながりの実感を性・年齢別にみると、“実感あり”と回答している割合は、男性では年齢が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、女性は『45歳～49歳』が41.0%で最も多くなっている。

【図表 191】地域のつながりの実感〈性・年齢別〉

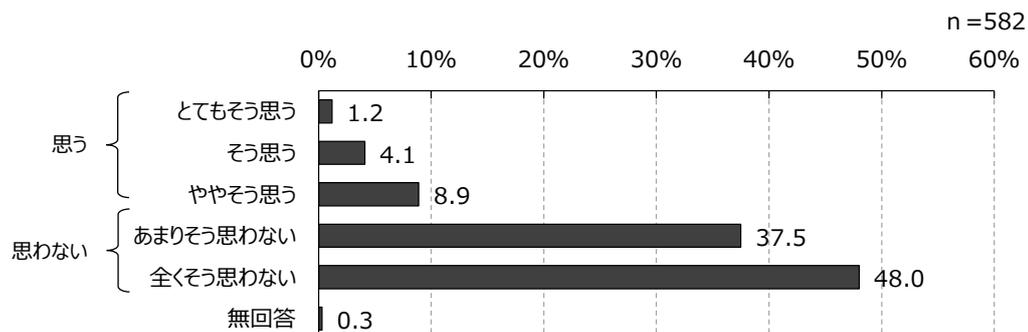


3 第2号被保険者調査

問11 あなたは、お住まいの地域の人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思いますか。

地域住人から何らかの役割を期待されたり、頼りにされていると思うかについて、「全くそう思わない」が48.0%と最も多く、「あまりそう思わない」(37.5%)と合わせた“思わない”は85.5%となっている。一方、「とてもそう思う」(1.2%)、「そう思う」(4.1%)、「ややそう思う」(8.9%)を合わせた“思う”は14.2%となっている。

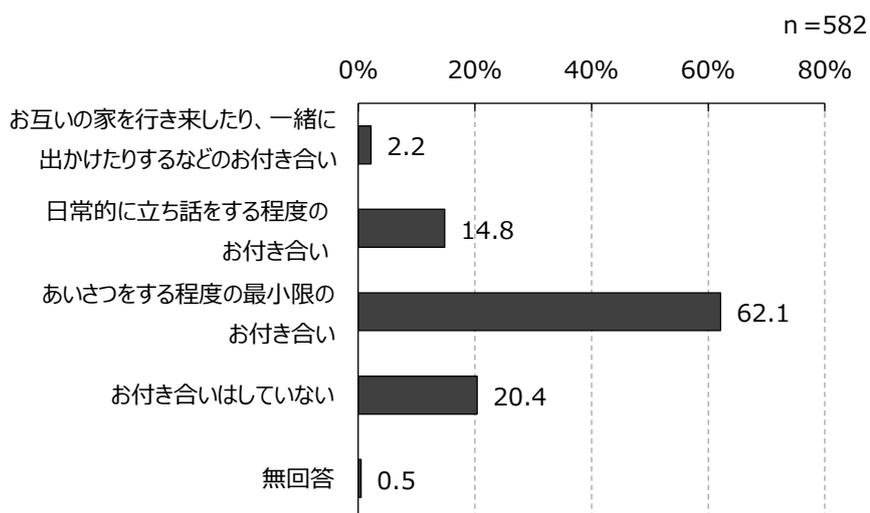
【図表 192】 地域の人から期待、頼りにされていると思うか



問12 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。

近所の方との付き合いの程度については、「あいさつをする程度の最小限のお付き合い」が62.1%と最も多く、次いで「お付き合いはしていない」が20.4%、「日常的に立ち話をする程度のお付き合い」が14.8%となっている。

【図表 193】 近所の方との付き合いの程度

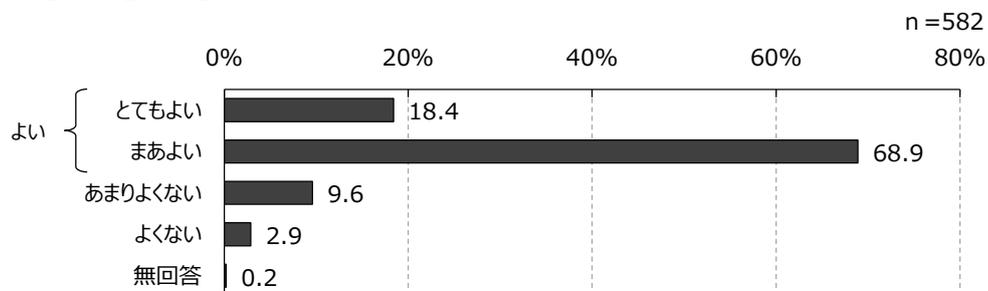


健康状態や健康づくり等について

問13 現在のあなたの健康状態はいかがですか。

現在の健康状態については、「まあよい」が68.9%と最も多く、「とてもよい」(18.4%)と合わせた“よい”は87.3%となっている。

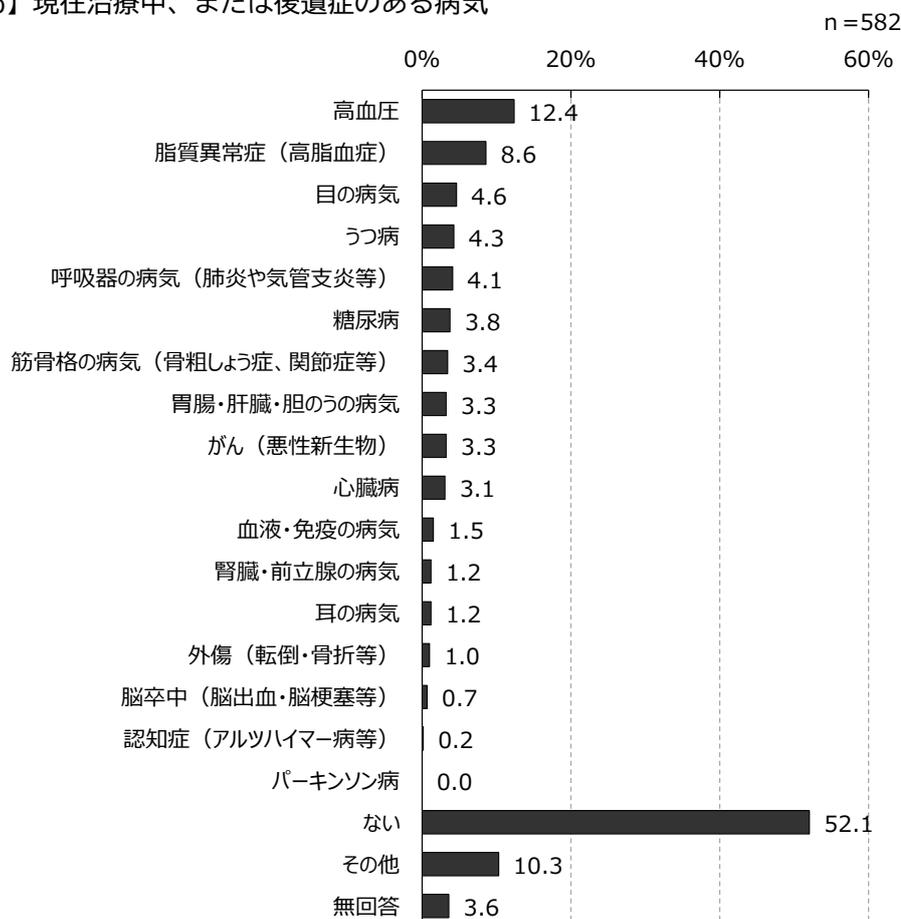
【図表 194】現在の健康状態



問14 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか。(複数回答)

現在治療中、または後遺症のある病気については、「ない」が52.1%と最も多く、次いで「高血圧」が12.4%、「脂質異常症(高脂血症)」が8.6%となっている。

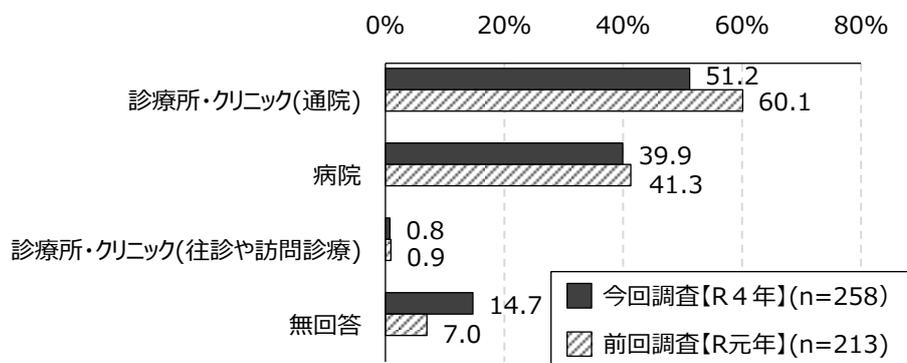
【図表 195】現在治療中、または後遺症のある病気



問14-1 受診している医療機関は、次のうちどれですか。(複数回答)

現在治療中、または後遺症のある病気について「ある」と回答した人に、受診している医療機関を聞いたところ、「診療所・クリニック（通院）」が51.2%と最も多く、次いで「病院」が39.9%となっている。

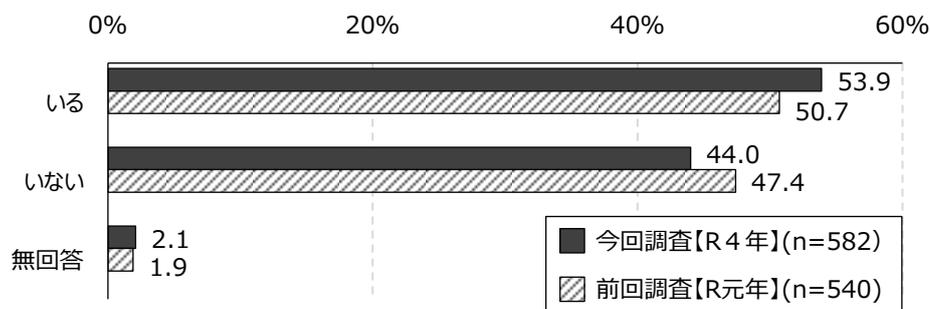
【図表 196】 受診している医療機関 〈前回比較〉



問15 あなたには、継続的に診療を受けていたり、体調が悪いときなどに気軽に相談できる診療所・クリニックの「かかりつけ医」がいますか。

かかりつけ医の有無については、「いる」が53.9%、「いない」が44.0%となっている。

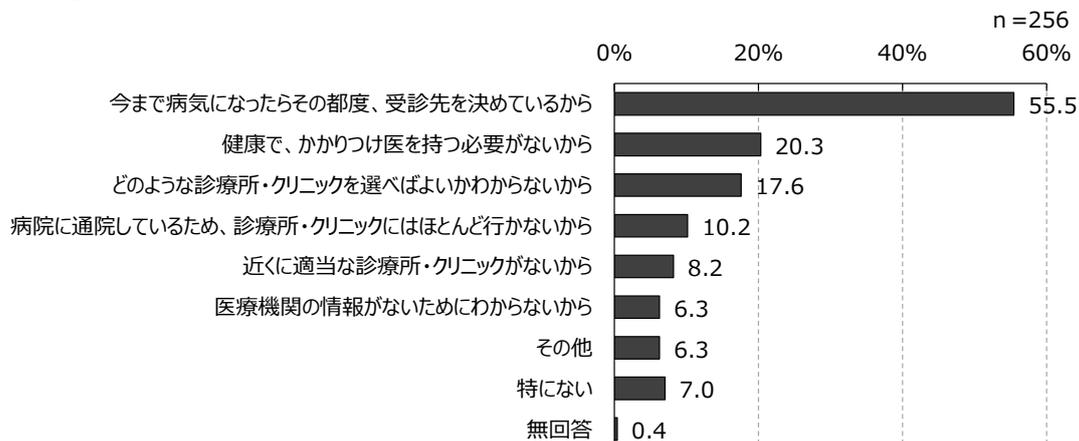
【図表 197】 かかりつけ医の有無 〈前回比較〉



問15-1 かかりつけ医がない理由は、次のうちどれですか。(複数回答)

かかりつけ医が「いない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「今まで病気になったらその都度、受診先を決めているから」が55.5%と最も多く、次いで「健康で、かかりつけ医を持つ必要がないから」が20.3%、「どのような診療所・クリニックを選べばよいかわからないから」が17.6%となっている。

【図表 198】かかりつけ医がない理由

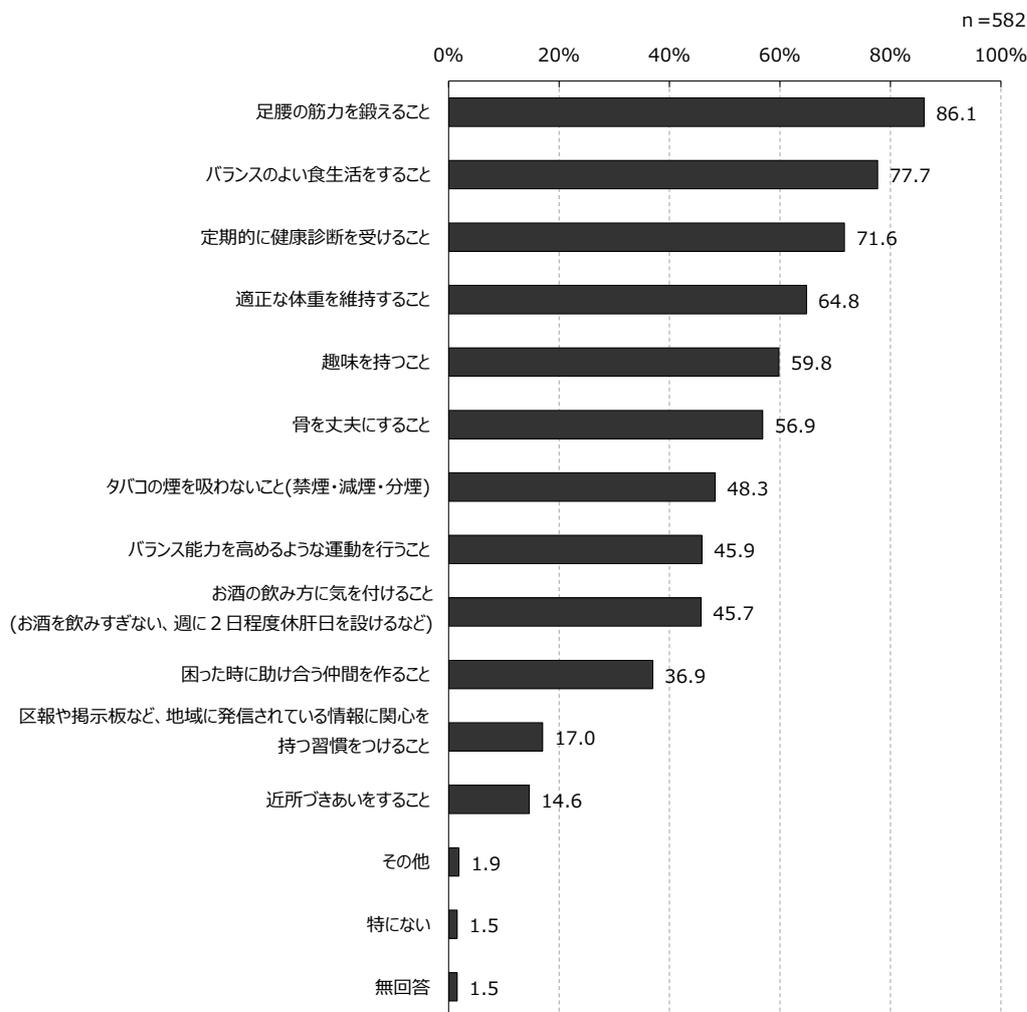


3 第2号被保険者調査

問16 いきいきと充実した活動的な高齢期を実現するために、40代から取り組んだほうがよいことは何だと思えますか。(複数回答)

活動的な高齢期を実現するために、40代から取り組んだほうがよいことについては、「足腰の筋力を鍛えること」が86.1%と最も多く、次いで「バランスのよい食生活をする事」が77.7%、「定期的に健康診断を受けること」が71.6%となっている。

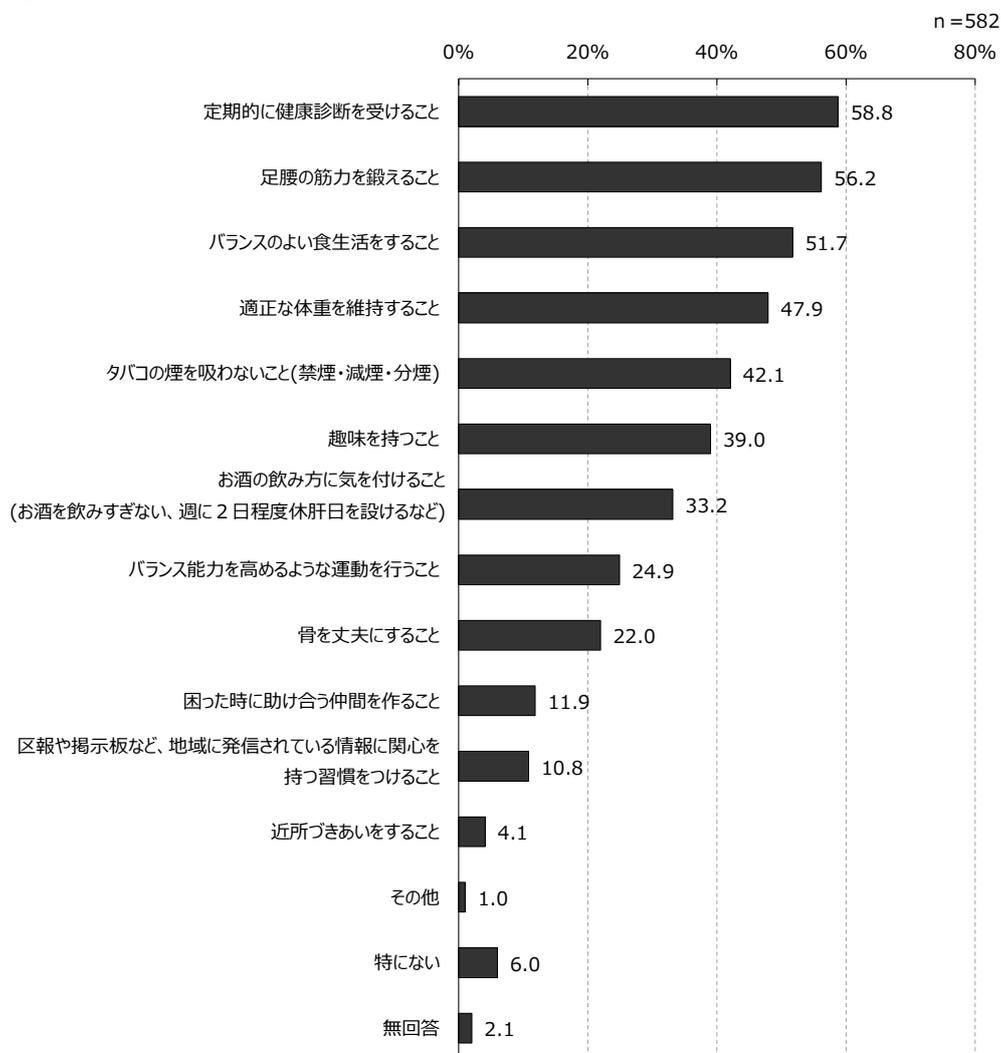
【図表 199】 40代から取り組んだほうがよいこと



問17 あなたが現在、実践していることはありますか。(複数回答)

現在、実践していることについては、「定期的に健康診断を受けること」が58.8%と最も多く、次いで「足腰の筋力を鍛えること」が56.2%、「バランスのよい食生活をする事」が51.7%となっている。

【図表 200】 現在、実践していること

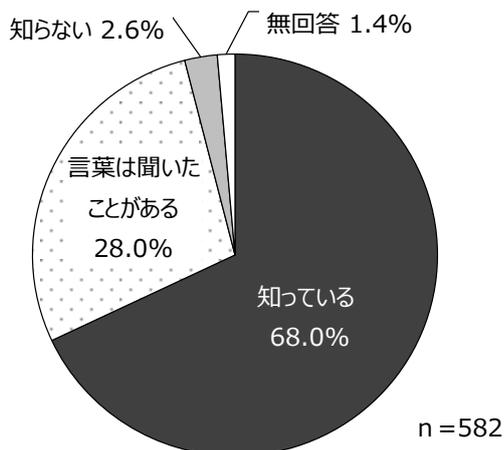


若年性認知症について

問18 あなたは「若年性認知症」という病気を知っていますか。

若年性認知症という病気の認知度については、「知っている」が68.0%と最も多く、次いで「言葉は聞いたことがある」が28.0%、「知らない」が2.6%となっている。

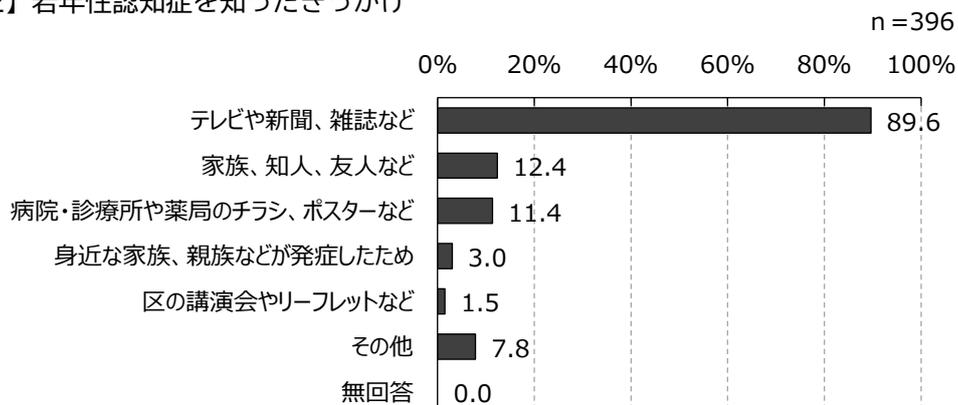
【図表 201】 若年性認知症の認知度



問18-1 「若年性認知症」を何でお知りになりましたか。(複数回答)

若年性認知症という病気を「知っている」と回答した人に、知ったきっかけについて聞いたところ、「テレビや新聞、雑誌など」が89.6%と最も多く、次いで「家族、知人、友人など」が12.4%、「病院・診療所や薬局のチラシ、ポスターなど」が11.4%となっている。

【図表 202】 若年性認知症を知ったきっかけ

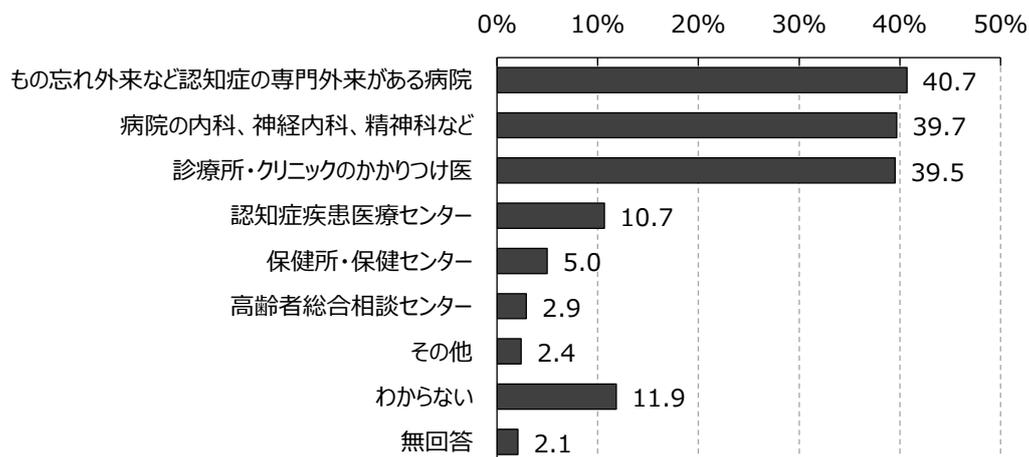


問19 あなたは、もの忘れや理解・判断力の低下、そのことによる仕事上のトラブルなど気になる症状があったとき、どちらに相談しようと思いますか。(複数回答)

もの忘れ等気になる症状があったときの相談先については、「もの忘れ外来など認知症の専門外来がある病院」が40.7%と最も多く、次いで「病院の内科、神経内科、精神科など」が39.7%、「診療所・クリニックのかかりつけ医」が39.5%となっている。

【図表 203】もの忘れ等気になる症状があったときの相談先

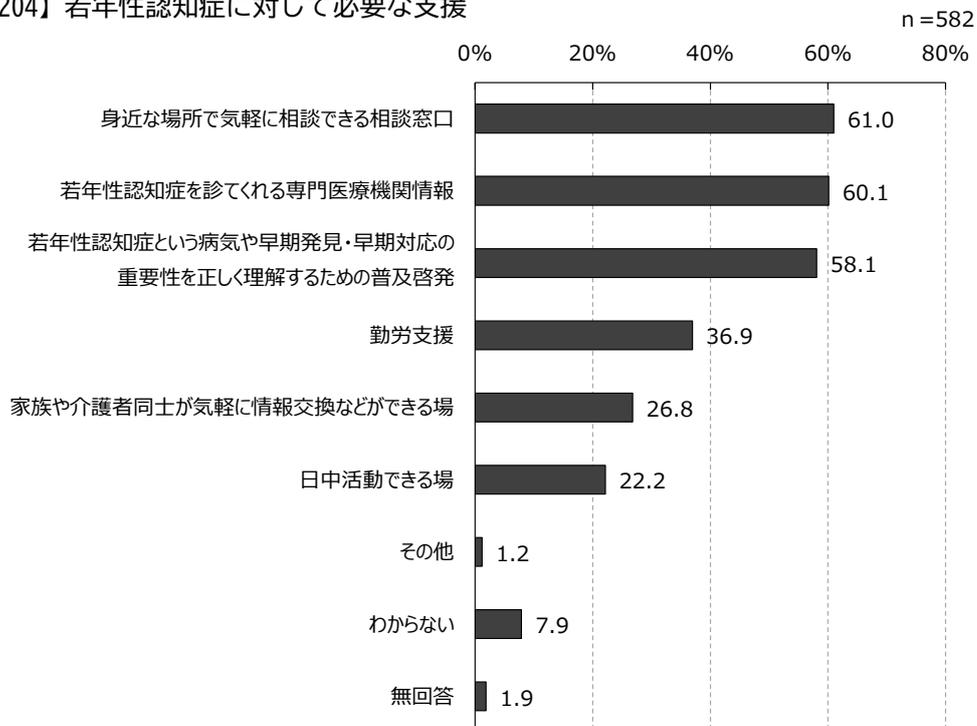
n=582



問20 あなたは、若年性認知症の支援には何が必要だと思いますか。(複数回答)

若年性認知症に対して必要な支援については、「身近な場所で気軽に相談できる相談窓口」が61.0%と最も多く、次いで「若年性認知症を診てくれる専門医療機関情報」が60.1%、「若年性認知症という病気や早期発見・早期対応の重要性を正しく理解するための普及啓発」が58.1%となっている。

【図表 204】若年性認知症に対して必要な支援

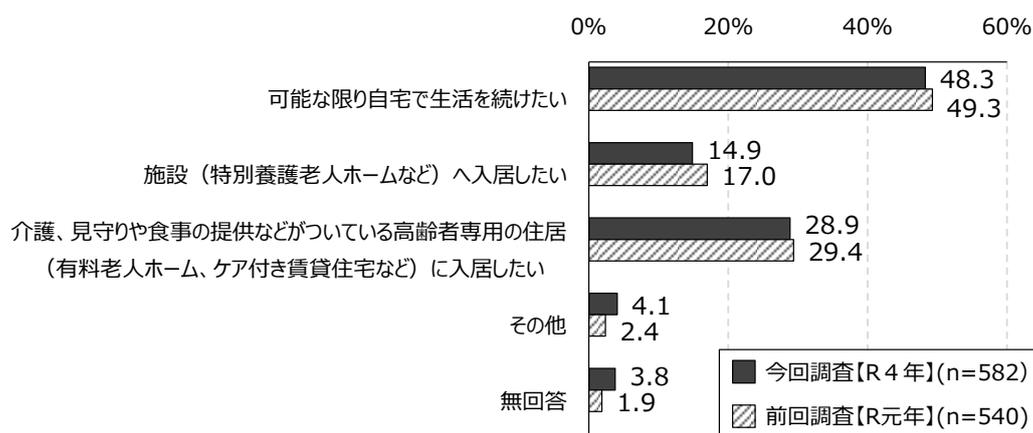


在宅療養等について

問21 あなたは、介護が必要になった場合、どこで生活を続けたいと思いますか。

介護が必要になった場合に生活を続けたい場所については、「可能な限り自宅で生活を続けたい」が48.3%と最も多く、次いで「介護、見守りや食事の提供などがついている高齢者専用の住居（有料老人ホーム、ケア付き賃貸住宅など）に入居したい」が28.9%、「施設（特別養護老人ホームなど）へ入居したい」が14.9%となっている。

【図表 205】介護が必要になった場合の生活を続けたい場所〈前回比較〉

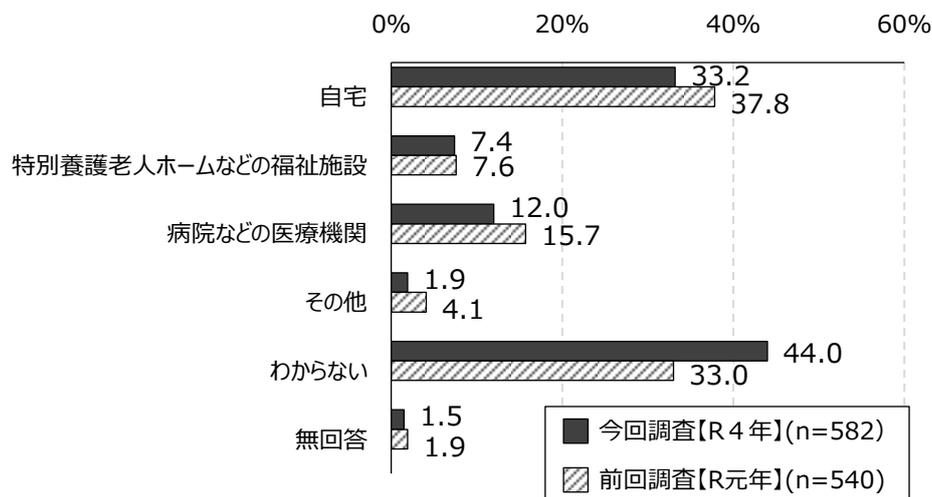


ACP（人生会議）について

問22 あなたは、ご自身の最期をどこで迎えたいと思いますか。

自身の最期を迎えたい場所については、「わからない」が44.0%と最も多く、次いで「自宅」が33.2%、「病院などの医療機関」が12.0%となっている。

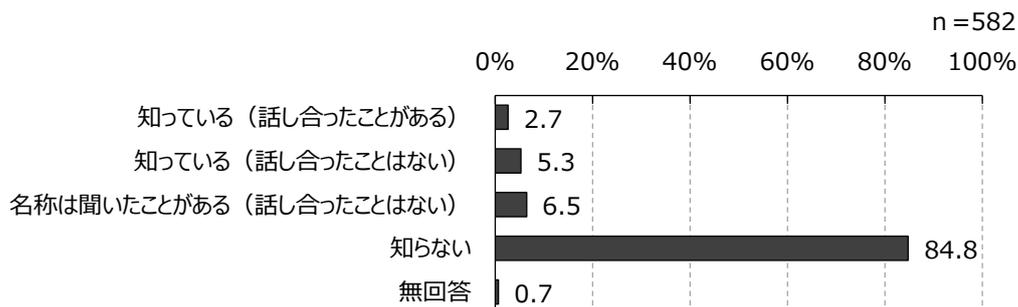
【図表 206】最期を迎えたい場所〈前回比較〉



問23 あなたは、ACP(人生会議)について知っていますか。

ACP（人生会議）についての認知度は、「知らない」が84.8%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある（話し合ったことはない）」が6.5%、「知っている（話し合ったことはない）」が5.3%、「知っている（話し合ったことがある）」が2.7%となっている。

【図表 207】ACP（人生会議）の認知度

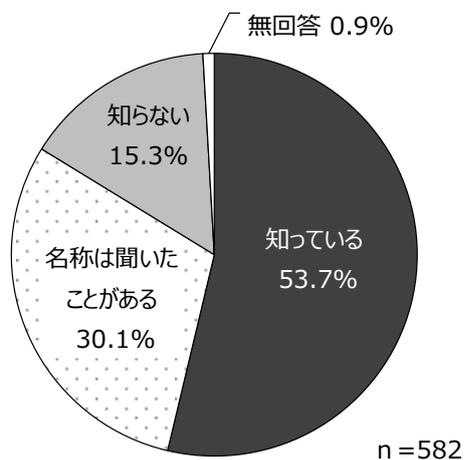


緩和ケアについて

問24 あなたは、「緩和ケア」について、知っていますか。

緩和ケアについての認知度は、「知っている」が53.7%と最も多く、次いで「名称は聞いたことがある」が30.1%、「知らない」が15.3%となっている。

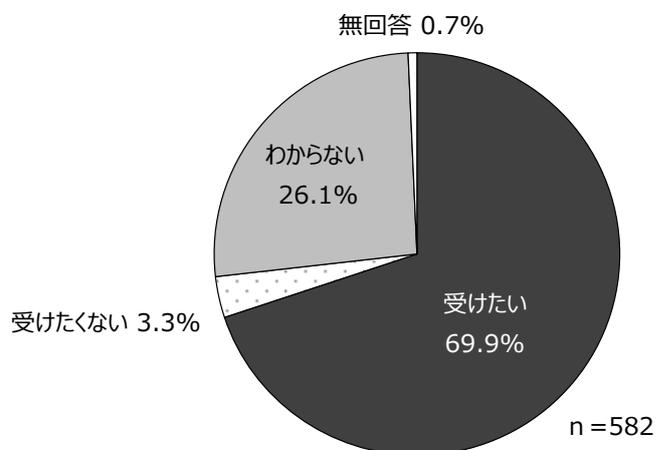
【図表 208】緩和ケアの認知度



問25 あなたは、緩和ケアが必要になった時、早期から痛みやつらさの緩和を主とした「緩和ケア」を受けたいですか。

緩和ケアが必要になった時、緩和ケアを受けたいと思うかについて、「受けたい」が69.9%と最も多く、次いで「わからない」が26.1%、「受けたくない」が3.3%となっている。

【図表 209】緩和ケアを受けたいと思うか

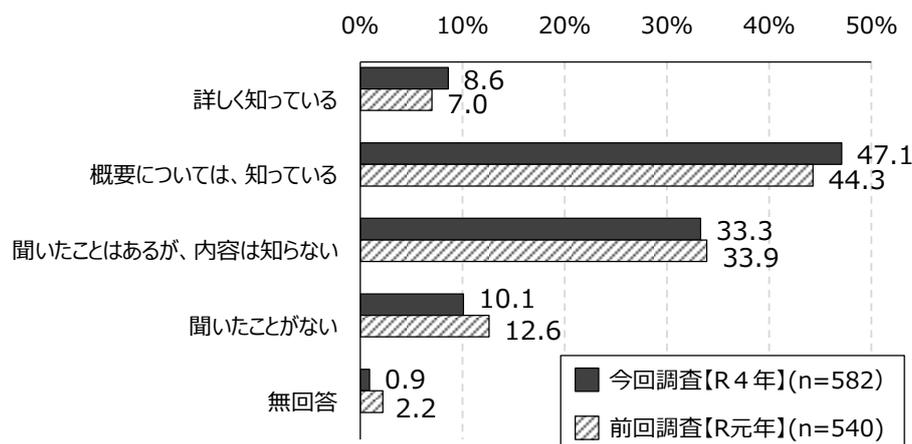


権利擁護について

問26 あなたは、成年後見制度を知っていますか。

成年後見制度の認知度については、「概要については、知っている」が47.1%と最も多く、次いで「聞いたことはあるが、内容は知らない」が33.3%、「聞いたことがない」が10.1%となっている。

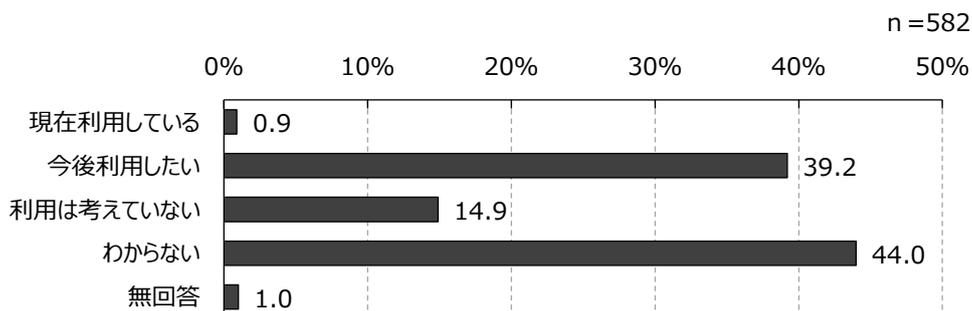
【図表 210】成年後見制度の認知度〈前回比較〉



問27 あなたは、あなた自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったとき、成年後見制度を利用したいと思いますか。

自身あるいは家族・親族が認知症等により判断能力が十分でなくなったときの成年後見制度の利用意向について、「わからない」が44.0%と最も多く、次いで「今後利用したい」が39.2%、「利用は考えていない」が14.9%となっている。

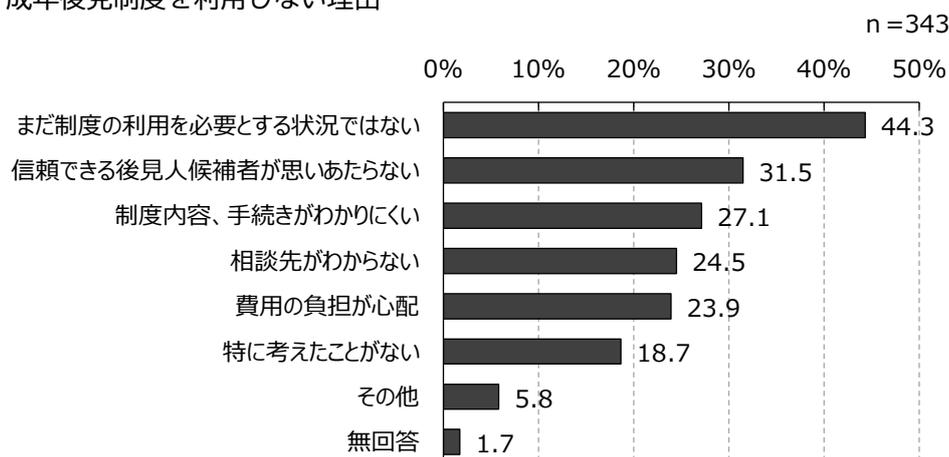
【図表 211】成年後見制度の利用意向



問27-1 成年後見制度を利用しない理由として、どのようなものがありますか。
(複数回答)

成年後見制度の利用意向で「利用は考えていない」、「わからない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「まだ制度の利用を必要とする状況ではない」が44.3%と最も多く、次いで「信頼できる後見人候補者が思いあたらない」が31.5%、「制度内容、手続きがわかりにくい」が27.1%となっている。

【図表 212】 成年後見制度を利用しない理由

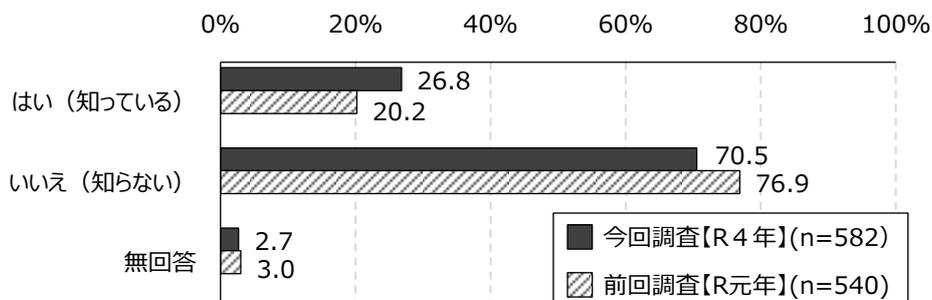


健康・福祉サービスの相談窓口について

問28 あなたは、「高齢者総合相談センター」の名称を知っていますか。

高齢者総合相談センターの名称の認知度については、「はい」が26.8%、「いいえ」が70.5%となっている。

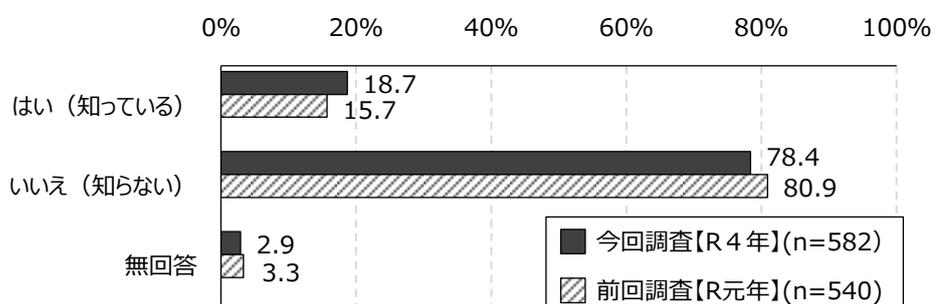
【図表 213】 高齢者総合相談センターの名称の認知度〈前回比較〉



問29 あなたは、「高齢者総合相談センター」が何をする機関か知っていますか。

機能の認知度については、「はい」が18.7%、「いいえ」が78.4%となっている。

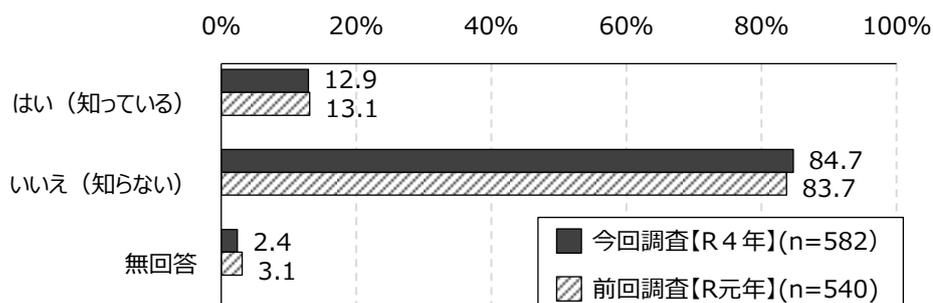
【図表 214】 高齢者総合相談センターの機能の認知度〈前回比較〉



問30 あなたは、あなたのお住まいの地域を担当する「高齢者総合相談センター」がどこにあるか知っていますか。

所在地の認知度については、「はい」が12.9%、「いいえ」が84.7%となっている。

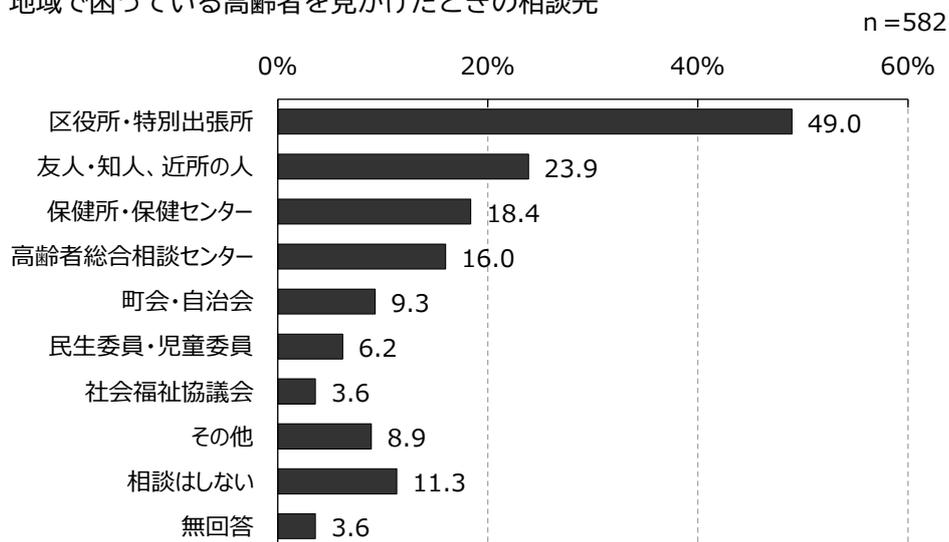
【図表 215】 高齢者総合相談センターの所在地の認知度〈前回比較〉



問31 あなたは、地域で困っている高齢者を見かけたり、異変に気付いたとき、どちらに相談しますか。(複数回答)

地域で困っている高齢者を見かけたときの相談先については、「区役所・特別出張所」が49.0%と最も多く、次いで「友人・知人、近所の人」が23.9%、「保健所・保健センター」が18.4%となっている。

【図表 216】地域で困っている高齢者を見かけたときの相談先

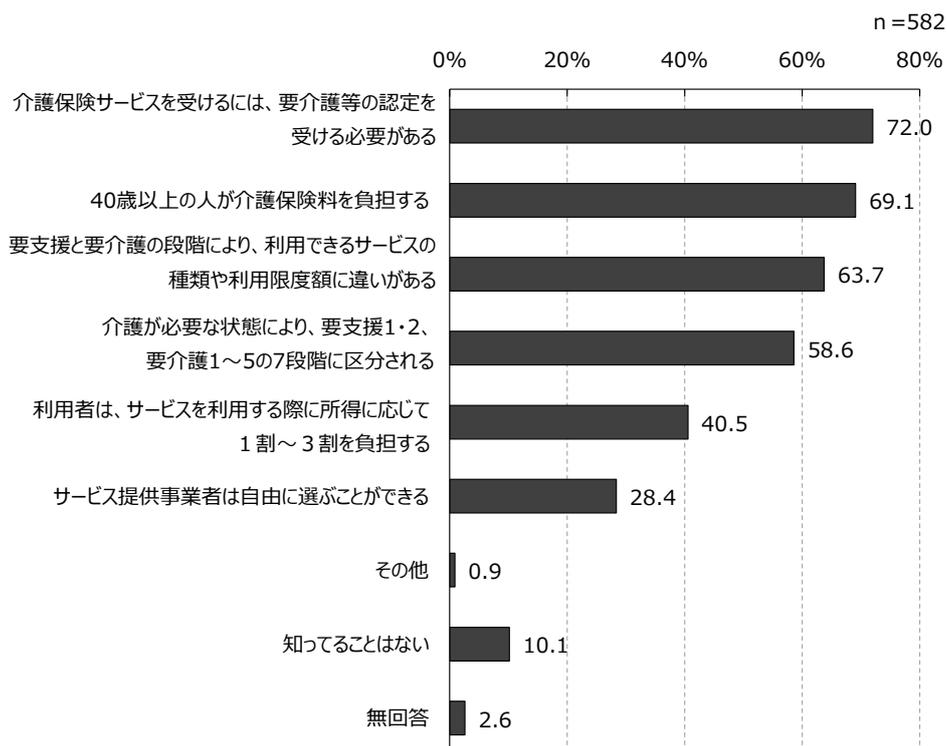


介護保険制度について

問32 あなたは「介護保険制度」について、どのようなことを知っていますか。
(複数回答)

介護保険制度の周知度については、「介護保険サービスを受けるには、要介護等の認定を受ける必要がある」が72.0%と最も多く、次いで「40歳以上の方が介護保険料を負担する」が69.1%、「要支援と要介護の段階により、利用できるサービスの種類や利用限度額に違いがある」が63.7%となっている。

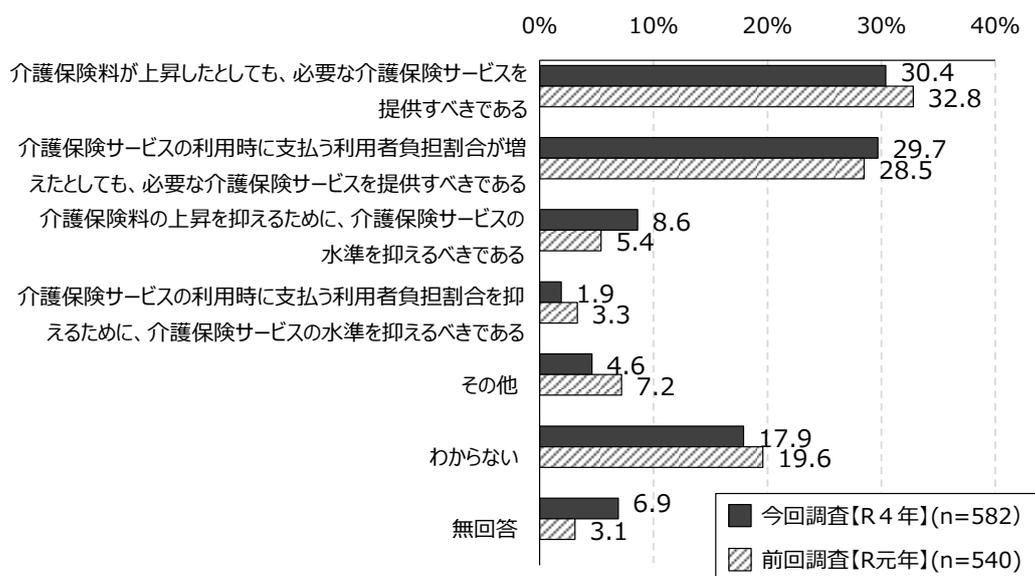
【図表 217】 介護保険制度の周知度



問33 今後、高齢者の増加に伴い、サービスにかかる費用も増大することが予想されます。介護保険のサービスと費用負担について、あなたのお考えに最も近いものは、次のうちどれですか。

介護保険のサービスと費用負担については、「介護保険料が上昇したとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が30.4%と最も多く、次いで「介護保険サービスの利用時に支払う利用者負担割合が増えたとしても、必要な介護保険サービスを提供すべきである」が29.7%、「わからない」が17.9%となっている。

【図表 218】 介護保険のサービスと費用負担〈前回比較〉



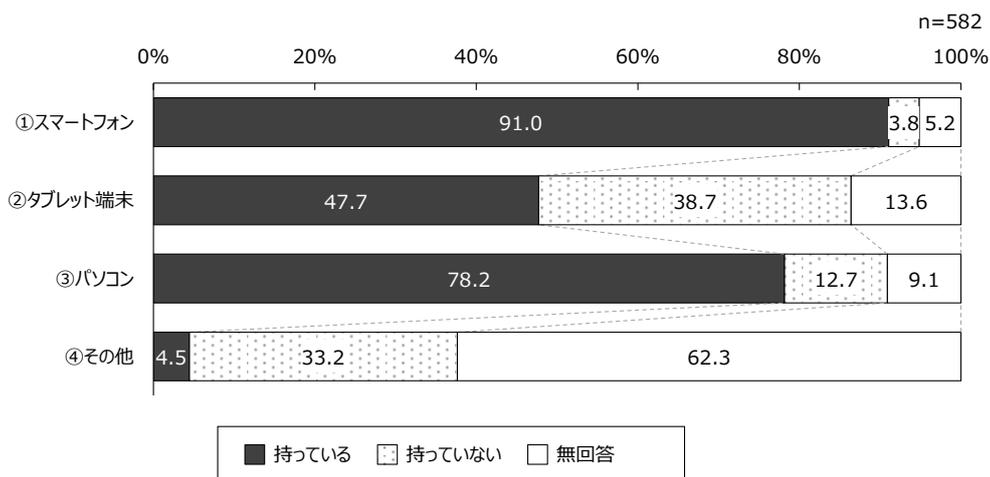
通信機器の利用状況等について

問34 通信機器の所有状況やインターネット等の利用状況についておたずねします。

(1)所有状況

通信機器の所有状況については、①スマートフォンを「持っている」が91.0%、②タブレット端末を「持っている」が47.7%、③パソコンを「持っている」が78.2%となっている

【図表 219】 通信機器の所有状況



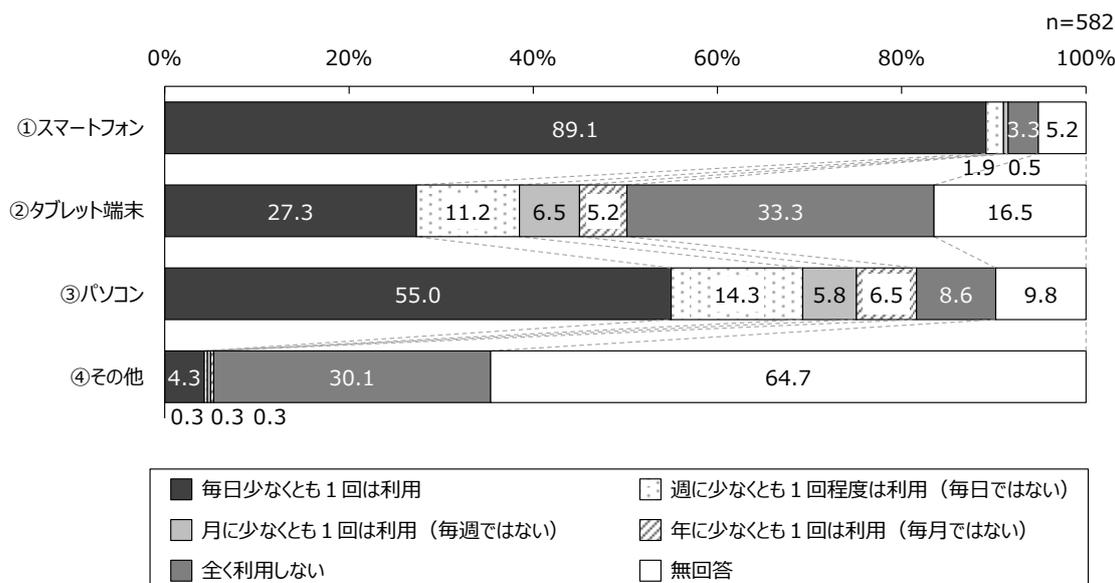
▼その他の主な内容

携帯電話（ガラケー）／ネット対応型テレビ／ゲーム機 等

(2)過去1年のインターネットの利用状況

過去1年のインターネットの利用状況について、①スマートフォンでは、「毎日少なくとも1回は利用」が89.1%と最も多く、次いで「全く利用しない」が3.3%となっている。②タブレット端末では、「全く利用しない」が33.3%と最も多く、次いで「毎日少なくとも1回は利用」が27.3%となっている。③パソコンでは、「毎日少なくとも1回は利用」が55.0%と最も多く、次いで「週に少なくとも1回程度は利用（毎日ではない）」が14.3%となっている。

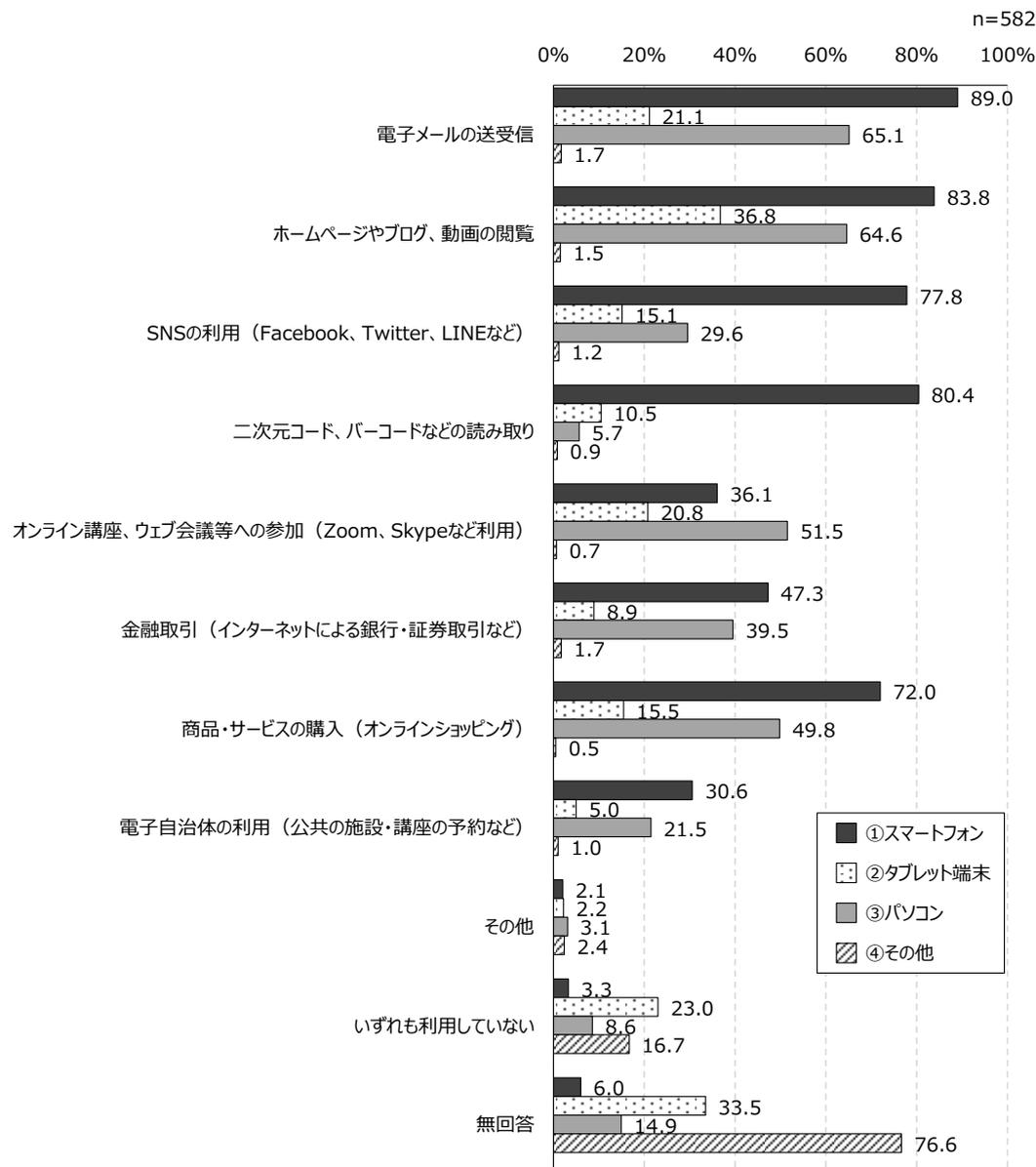
【図表 220】 過去1年のインターネットの利用状況



(3)過去1年間に利用した通信機器を使った機能・サービス(複数回答)

過去1年間に通信機器を使って利用した機能・サービスについて、①スマートフォンでは、「電子メールの送受信」が89.0%と最も多く、次いで「ホームページやブログ、動画の閲覧」が83.8%となっている。②タブレット端末では、「ホームページやブログ、動画の閲覧」が36.8%と最も多く、次いで「電子メールの送受信」が21.1%となっている。③パソコンでは、「電子メールの送受信」が65.1%と最も多く、次いで「ホームページやブログ、動画の閲覧」が64.6%となっている。

【図表 221】過去1年間に通信機器を使って利用した機能・サービス



▼その他の主な内容

仕事／動画配信サービス／ゲームアプリ／電子書籍 等

自由記述

問35 高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、区へのご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

高齢者の保健と福祉に関する施策や介護保険について、99人から105件の回答があった。意見を9の項目にまとめた各項目の主な意見は以下のとおり。(その他を除く)

施策全般について	26件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 独居老人等への介入、支援を行ってほしい。 ・ 高齢者が暮らしやすい社会はどの世代にとっても暮らしやすい社会だと思う。保健・福祉サービスを利用したい人が適切に利用できるよう一層の充実を求める。 ・ 高齢者よりも将来のある子どもたちや、新社会人を助ける方策に力を入れてほしい。 	
情報提供・相談について	25件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自助努力のための準備呼びかけ、必要な資金、公的福祉財源についての情報などわかりやすくPRしてほしい。 ・ 高齢者に必要な情報が届くよう工夫してほしい。 ・ 保健、福祉に関するワンストップの相談・連絡調整窓口を整備し、周知を図ってほしい。 	
介護保険・サービスについて	18件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、年金生活になった時、金銭的にもケア内容も十分な介護を受けられるか不安。 ・ 多様な生活で、全ての人を満足させるケアはできないまでも、真摯にできるところで取り組んでくれることに、心より感謝している。 	
行政への要望	8件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 平日は働いているので、土・日にも窓口を開けてほしい。 ・ 年齢を重ねるにつれ近所での施設充実が、いろいろな事への参加意欲につながると思うので区役所やセンター内での催し物を増やしてほしい。 ・ 粗大ごみの不法投棄や路上駐輪が多く街並みが汚く不快。 	
アンケートについて	3件
<ul style="list-style-type: none"> ・ だれもがいつか必要になる事だが、自ら関心がなければ知り得ない内容だなと感じた。 ・ このアンケートによって、高齢者総合相談センターの存在を知った。 	
健康・介護予防について	3件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の一人暮らしがとて多多いと思う。ラジオ体操のような簡単な運動、筋力づくりを定期的に行ってもらえるような、内向的な人も参加したくなるようなコミュニティの場を工夫してつくるのが良いのではないか。 	
就労・地域活動について	2件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会に入っていないが、未入会の住民へ定期的に入るように勧誘をしてほしい。地域への関心を深める必要性を感じている。 	
医療・保健について	2件
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の医療について緊急や重大な病気以外は制限等を設けて、医療費の削減を行ってほしい。 ・ 高齢者への薬の処方過多はどうすれば防ぐことができるか。将来的にはAIで管理することを検討していくのが課題かと考える。 	
その他	18件